

## 捕獲手法について

	メリット	デメリット	平成25年度事業に向けての今後の対応	備考
銃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲個体を成獣、亜成獣、幼獣の別で選択可能</li> <li>・捕獲個体数のコントロールがしやすい</li> <li>・捕獲個体の回収が比較的楽</li> <li>・冬期を除く期間において捕獲可能（冬期は海が荒れるため船が出せない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生息地攪乱及び観光客への配慮の観点から、岬先端での捕獲実施の検討が必要</li> <li>・捕獲予定場所（岬以外の場所）を限定 捕獲時期が繁殖期に限られる 一度捕獲すると捕獲予定場所が使われなくなる（同一個体（集団）の利用だと思われるため）</li> <li>・一度に捕獲できる頭数が限られ、時期が経つにつれて、学習されるため捕獲が困難になると予測される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約準備</li> <li>・鳥獣捕獲許可申請</li> <li>・安全対策の検討（周知、警備）</li> <li>・船舶検査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲予定場所で、7月以降モニタリングした結果、ゼニガタアザラシの上陸は確認できず</li> <li>・一斉射撃は5名が限度</li> <li>・遊泳個体は、回収不可能</li> </ul>
網（刺網タイプ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期を除く期間において捕獲可能（冬期は海が荒れるため船が出せない）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲個体は選択不可/捕獲個体数のコントロールが困難 主にPUP・幼獣が捕獲されることが想定</li> <li>・捕獲時間が長時間になる （網を設置した後、ゼニガタアザラシが岩礁に戻ってくるまで待つ必要があるため）</li> <li>・網を切断して捕獲個体を回収する必要がある（網の再利用不可or修復が必要？）</li> <li>・捕獲個体を回収する際に、船の上で個体が暴れるため、作業員の危険性が高い 足場が安定しないことから銃による止めさしは不可</li> <li>・現時点では、溺死させずに捕獲する方法がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣捕獲許可申請</li> <li>・船舶検査</li> <li>・溺死対策の検討</li> <li>・止めさしの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溺死させないことを条件にした場合、引揚げ時間及び引揚げ重量を考慮する必要がある</li> <li>・捕獲個体を間引きする方法の検討が必要 選択的な捕獲が可能となる</li> <li>・安全に作業できるような安楽殺や鎮静方法の検討が必要</li> </ul>

<p>網(定置タイプを想定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期を除く期間において捕獲可能(冬期は海が荒れるため船が出せない)</li> <li>・捕獲作業自体が空き時間に短時間で可能</li> <li>・網の複数回利用が可能</li> <li>・溺死させずに捕獲可能(浮網にすればよい)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲個体は選択不可/捕獲個体数のコントロールが困難 主にPUP・幼獣が捕獲されることが想定</li> <li>・捕獲個体を回収する際に、船の上で個体が暴れるため、作業員の危険性が高い 足場が安定しないことから銃による止めさしは不可</li> <li>・設置許可が必要</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲個体を間引きする方法の検討が必要 選択的な捕獲が可能となる</li> <li>・安全に作業できるような安楽殺や鎮静方法の検討が必要</li> <li>・費用の問題 既設の網を利用する小定置の作成費用は100万円程度？ 小定置の作成費用は800万円程度(中古でも500万円程度) 厚岸湾で利用していた網はほぼ無料(手作り)</li> <li>・厚岸湾において捕獲実績がある</li> </ul>
<p>箱わな</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期を除く期間において捕獲可能(冬期は海が荒れるため船が出せない)</li> <li>・捕獲作業自体が空き時間に短時間で可能</li> <li>・網の複数回利用が可能</li> <li>・溺死させずに捕獲可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲個体は選択不可/捕獲個体数のコントロールが困難 主にPUP・幼獣が捕獲されることが想定</li> <li>・外海に耐えられるような、箱わなの設置方法の改良が必要</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲個体を間引きする方法の検討が必要 選択的な捕獲が可能となる</li> <li>・安全に作業できるような安楽殺や鎮静方法の検討が必要</li> <li>・厚岸湾や抜海港においては、捕獲実績あり</li> </ul>
<p>その他 (混獲個体の活用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲のための費用が不要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・捕獲個体は選択不可/捕獲個体数のコントロールが困難 主にPUP・幼獣が捕獲</li> <li>・漁業者主体の作業となり、不満解消につながらない可能性</li> <li>・漁業被害軽減に繋がらない 混獲個体は、幼獣がほとんどでサケは捕食していない</li> </ul>		